

長梅雨の次は酷暑 長期予報と作物の生育について

残暑お見舞い申し上げます。今年の夏は兎にも角にも暑い、暑すぎる！。8月17日には静岡県浜松市において、2018年7月23日に埼玉県熊谷市で記録した国内最高気温41.1℃と並ぶ気温となった。全国でも体温よりも気温が高くなった地域も続出し、思考回路が停止しそうだ。8月の電気代の請求額が怖い…。本号が発行される8月

26日には暑さのピークが過ぎている事に期待しながら書きすすめているところだが、全国的に梅雨明けが遅れて全般的に作物の生育が思わしくない中であつたが一転して夏真っ盛りとなった。局地的なゲリラ豪雨もあり、さながら熱帯地域のような気候模様である。例年であれば盆を過ぎたら気温も下がってくれるはずなのだが、就寝中も高温注意情報が発せられ熱帯夜でクーラーを消す事が出来ない日々が続いている。また、新型コロナウイルス感染防止の観点からマスク着用は手放せず、日中歩いたら外気温と高湿度のせいでマスクの中は湿気で充満してしまいすぐにでも息苦しくなってしまう。

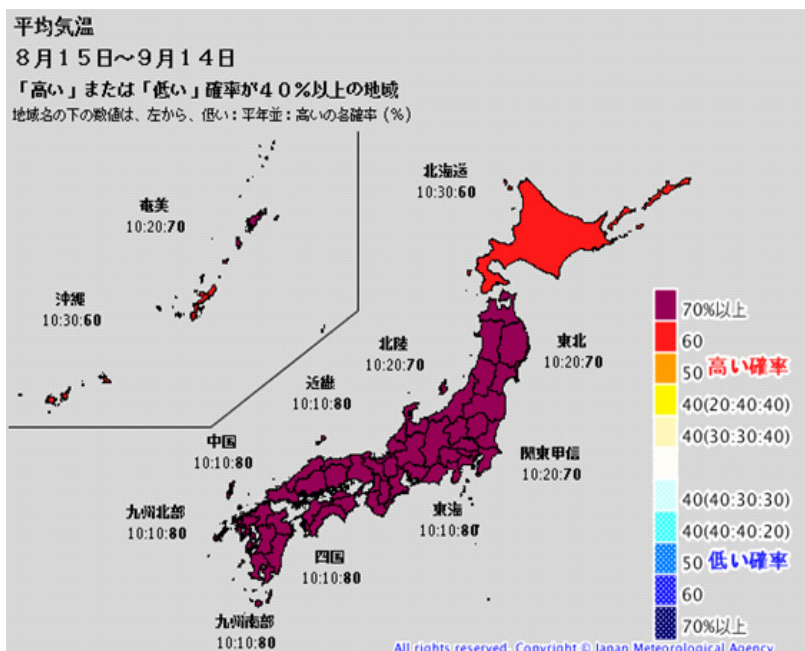
ソーシャルディスタンスを保つ事が出来ればマスクの着用はかえって命取りともなりうるため、外でもマスクを外す事を奨励しなければならない過酷さだ。新型コロナウイルスが原因での死亡者数よりも熱中症による死亡者数が上回ってしまう位、人間だけでなく作物にも堪える暑さが続いている。

7月中旬までは長梅雨の影響でレタスやキャベツ等の結球野菜は病気にかかりやすく群馬や長野の高原野菜の産地では秀品率が下がり生産者泣かせとなった。今度は盆明け定植で霜が降りる前までの収穫を狙った結球野菜は特に標高の低い畑では定植後に暑くて活着前に枯れてしまうというダブルパンチに見舞われている。また、秋定植のために用意していた苗もハウスの中で高温が影響して蒔き直したと言った失敗談も聞かれている。梅雨明けで定植や播種を待ち望んでいた秋冬野菜は一斉スタートとなったため、恐らく出荷も同じ時期と重なり一時的に品物がダブつく恐れもあるだろう。農水省のHPでも野菜の流通価格においてはキャベツとはくさいを除く大半の生産物は8月末までには平年並みになる予測が出ている。水稲においてはこれまた早場米の地域においては日照不足により軟弱徒長気味に生育が推移、追い打ちをかけて雨続きの時に出穂・開花、登熟期には高温障害による熟度不足が原因で屑米や青米が多いとの声



激発したイネのイモチ病 麦あと栽培 8月中旬撮影

(次ページへ続く)



気象庁 8月15日～9月14日1ヶ月予報より

(次ページへ続く)

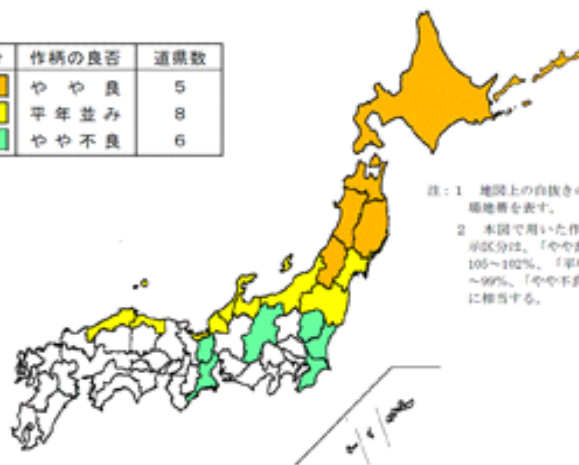
が聞こえてきた。大分では一部の地域でウンカの被害にも見舞われている。麦あとの6月中旬田植えの地域では、特に窒素が効いている生育のイネは普段は見られないイモチ病が激発、2度の防除をしても止葉まで移ってしまい止まらないとの報告がある。その地域においてイモチ病はあるものを見る程度のもので病気が止まらないなどというような経験は近年ないと言う。初期からイモチ防除剤を使用するような観点はほぼ少なく、防除体系にも組み入れてこなかった実情があるようだ。よって、若い農家は葉が赤く枯れ込んでいるのはイモチ病の蔓延だと分からない生産者もいるとのこと。この酷暑の中での防除作業は流石に身体に堪える。今年のような経験は次年度に向けた啓発ともなろう。気象関連会社や気象庁発表の長期予報によると、9月中旬までは平年よりも高温が続くとする予報が殆ど。残念ながら暫くは作物とともに人間様も体調管理に注意が必要なようだ。暑さ寒さも彼岸までという言葉があるが、この言葉はもはや現在の日本の天候にはそぐわない言葉となっているのかも知れない。くれぐれもどうぞ読者の皆様、この酷暑を乗り切ってください。

令和2年産 水稲作況 早生は「やや不良」、米価は下落スタート

農水省は令和2年産米における7月15日に西南暖地の早期水稲は「やや不良（沖縄第1期作除く）」、続いて8月28日に早場地帯の水稲の作況について北海道・東北4県は「やや良」、東北の宮城・福島、新潟北陸3県・鳥取島根は「平年並」、関東の栃木・茨城・千葉・長野、中部地区の岐阜と三重は「やや不良」と発表した。やや不良と判定が出た現場の県からは特に出端の収穫物に青未熟粒が多いとの事で平均半～1俵落ちとの事。ただし、同じ品種でもあとから出穂を迎えたものについては登熟歩合が向上してきているという。長梅雨の影響で開花時の日照不足と降雨が主因のようだ。また、これから収穫期を迎える主力の品種においては上述の影響から軟弱徒長傾向にあるため暴風雨が発生するとひとたまりもなく倒伏する恐れがある。現に、日本海側を通過した台風5号の影響でフェーン現象が発生し、局地的に短時間に暴風雨となった新潟下越・庄内地域では8月末時点でこうべを垂れ始めたばかりのコシヒカリが既に倒伏してしまったとの声が聞こえてきた。7月は台風が日本列島に接近どころか発生もしなかったが、今までの借りを返すかの如く台風は8月に入って7つ発生、うち日本に3つ接近しており台風シーズンに突入した。今後の台風の発生に注意したい。令和2年産新米価格のスタートは銘柄にもよるが、前年よりも1俵1,200～2,000円落ちで始まった。本格的な収穫シーズンを迎え今年の作柄と米価が気になり始めた。米穀関連の専門紙は「やや良」と予測している。作況と価格動向については随時情報発信していきたい。

図1 早場地帯の作柄の良否

| 区分 | 作柄の良否 | 道県数 |
|------|-------|-----|
| 黄色 | やや良 | 5 |
| オレンジ | 平年並み | 8 |
| 緑 | やや不良 | 6 |



注：1 地図上の白抜きの都府県は、産地帯を表す。
2 本図で用いた作柄の良否の表示区分は、「やや良」が対平年比105～110%、「平年並み」が101～99%、「やや不良」が98～90%に相当する。

○ 作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行った。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。

農水省HPより

長梅雨に梅雨寒が続いた7月から一転して、8月は酷暑となりましたね。私は暑くなり始めた頃に家の中で軽い熱中症になりました。そろそろ暑さもひと段落ですが、台風シーズン到来です。こちらも十分に気を付けたいです。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp